

# 海ぶどう

海ぶどうは和名を「クビリスタ」という南洋海域に自生する海藻。低カロリーでビタミンやミネラルが豊富なので人気が高い。養殖には、海洋深層水が利用されている。



## 海洋深層水を利用して海ぶどうの養殖に成功

海ぶどうは生育環境にデリケートな海藻で、水温管理の問題からオゴノリなどの他の海藻に比べて養殖が難しいとされてきた。しかし、水温が10℃前後と安定している海洋深層水を使うことによってその問題は解決され、年々増加している需要に応える供給がされている。

### ● 製造工程



## 1 植え付け ~専用のネットに種を植える~

海ぶどうが付きやすい間隔で編まれている植え付け用のネットに、種をていねいに植え付ける。このネットに、海ぶどうの大量養殖を可能にした秘密がある。2週目ぐらいいまでに一気に生長し、それ以降はゆっくりと生長する。肥料を手かける久米島海洋深層水開発では、枝分けのない「一本もの」と呼ばれる美しい形の子苗がつかうられている。



▲ていねいに1つ1つ手で種を植え付けしていく。4.5日目で芽が出る。

**POINT** 海ぶどうは室温で！

海産物だからということで、つい冷房で入れてしまいがち、でもそれは絶対に避けること。暖かい海で育ったものなので、25℃程度に保存するのが長持ちの秘訣。冬場は暖かい室内で、また、海ぶどうは繊細なものなので、真水で洗ったり、トッピングなどをかけた圧によって潰れてしまう。付けは食べる直前に。

## 2 育成 ~水槽に入れ、日光や温度を調節して育てる~

海ぶどうはデリケートな海藻で、生長に最適な温度は25℃前後である。そのため、天候や日照時間に応じて、遮光ネットや海洋深層水を



▲施設内に設置されている30規模の水槽につける。



▲日光の調整は遮光ネットの間隔で行う。天候と気温を見ながらの作業になる。



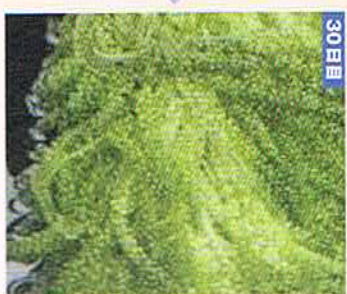
▲海ぶどうの生長の様子。



10日目



20日目



30日目

